

令和6年7月11日

朝日丘地域会議
会長 深井 弘司 様

豊田市長 太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

- 1 報告事項 令和5年12月14日に朝日丘地域会議から受けた「『(仮称)ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造」に関する答申についての検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 企画政策部 企画課、都市計画課

朝日丘地域会議からの答申に対する検討結果

1	答申内容	【めざす姿】 概ね妥当と考える。 朝日丘地域では伝統ある挙母祭りをはじめ、各自治区を中心に様々な地域イベントで人と人とがつながる地域づくりが行われている。一方で、自治区・子ども会・高齢者クラブ等の加入者や行事参加者は減少傾向にある。地域内の人々の「つながり」はコロナ禍でより希薄となってしまった。また、朝日丘地域には新しい博物館を始めとした充実した文化施設を活用した人づくりやものづくりが期待できる。自然を守り、歴史・文化を学び、自分らしく暮らしを楽しむまちづくりへの方向性は適切である。 ・将来都市像「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」は、第8次豊田市総合計画から前進する意味も込め、「つながる つくる ウェルビーイングシティとよた」としてインパクトを出すと良い。 ・あらゆる主体が変化を積極的・前向きに受容し、主体的に一步踏み出せる社会の実現という意味では、「深化」は「進化」が適切である。
	市の考え	ご意見のとおり、「つながり」については、多様な「人と人」「世代と世代」「人と地域、自然」とのつながりを通じた「気づき合い」「認め合い」「学び合い」が重要と考え、「(仮称)ミライ構想」に掲げています。 なお、将来像については時代が変わっても大切にしたい姿として掲げるとともに、こどもを含め誰もが共有できる言葉で示すことを意識しており、「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を継承することを考えています。 また、「深化」については、これまで積み上げてきたものをさらに深めたいため「深化」という表現をしています。全体を通じて市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。

2	答申内容	【まちづくりの基本的な考え方】 概ね妥当と考える。 「発想の転換」のうち、「あるものを生かす」については、まず何があるのかを把握し、どのように活用できるのか、地域で工夫して考えることができると思う。「3つの『変える』を意識」のうち、「行動」については、より主体的に物事を捉え、公助を待つばかりでなく、自助・共助による行動を考えていくことが重要であると考え る。 ・「発想の転換」の「『行政がリードするまちづくり』から『多様な主体が楽しむまちづくり』へ」について、行政が手を離してしまう印象を受ける。後者を『行政が後押しし多様な主体で育むまちづくり』に変更すると良い。 ・行政は、多様な主体では実施することができない「ないものを補う」機能については、継続する必要がある。
	市の考え	第9次豊田市総合計画は、市民の皆様と行政がともに取り組む、これからの豊田市のまちづくりの「将来像」を描き、それを実現するための方向性を明らかにするとしています。 こうしたことから、多様な主体が活躍できるよう、それぞれが相互に協力・補完し合うことが必要であることから、引き続き行政の支援は重要であると考えており、表現については、参考にさせていただき、計画図書等でイメージできるように工夫していきます。 また、「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ。という視点については、まずは、既にあるものを活用することを意識するという発想が重要であると考え、まちづくりの基本的な考え方として示しています。

3	答申内容	【都市構造】 概ね妥当と考える。 朝日丘地域と旭地域は、Wあさひ交流事業として、互いの文化施設の見学やウォーキング、ゴルフのイベントを通じて、互いの地域に対する理解を深め、交流を図ってきた。このようなつながりがデジタル技術の活用や（仮）えきちか居住誘導エリアの整備により強化されれば、豊田市はより魅力的なまちになると考える。 ・都市構造イメージの（仮）えきちか居住誘導エリアについて、実際に事業化する際は、市街化区域だけを基本とするだけではなく、新上挙母駅・上挙母駅周辺などの市街化調整区域も含めた理想のエリア区域を想定して計画してほしい。 ・市内の拠点間移動に係る交通ネットワークの強化は重要であるが、拠点内での公共交通機関の充実についても検討してほしい。また、車の利用者だけでなく、自転車や歩行者にとってやさしい環境整備をお願いしたい。
	市の考え	えきちか居住誘導エリアは、鉄道駅が持つポテンシャルを最大限に活用し、安全で快適な市街地の形成に向けた取組の方向性を示すものです。ご意見を参考に、居住誘導に関する具体的な取組やその区域等について検討していきます。 拠点内の移動は「生活交通」として、それぞれの地域の特性に応じた持続可能な移動サービスの実現を目指していきます。 生活交通は、地域の実態に合わせて「自助・共助・公助」による様々な手段を組み合わせることで、多様なニーズに対応した移動の確保を図っていきます。

4	答申内容	【(仮称) ミライ実現戦略2030の方向性 (素案)】 概ね妥当と考える。 こどもは「社会の宝」として、家庭や学校だけでなく、市の施策や地域・自治区での活動を通して、みんなで次世代を担うこどもを育てていくことが重要であり、「こども」視点は必要不可欠である。さらに、地域を支える力である住民の地元への「愛着・誇り」を重視する横断的な目標は欠かせないことである。 ・横断的な目標の「こども」は、こども以外が含まれない印象を受けるため、「ミライの市民」など市民全員が関係することが伝わる表現に改めたい。こどもが健やかに育つためには、周りの大人（親・地域・高齢者など）も含めたすべての市民が住みやすく明るい豊田市を目指す必要があるため。 ・「地域共生」は「助け合い」と変更すると伝わりやすい。 ・ミライ実現戦略2030の方向性とは何か、諮問資料のみでは理解しづらい。
	市の考え	今後5年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「(仮称) ミライ実現戦略2030」の検討状況については、あわせて配布させていただいた第9次豊田市総合計画中間案の資料を御参照ください。 なお、注力する視点として、①「こども」起点でまちづくりを考える。②誰もが「つながり合う」まちづくりを進める。③人を支える「まちの基盤」を作る。を掲げ、取組目標や施策について、現在の検討を進めています。